



日本統計学会 会報 2014.7.30

No.
160

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
(公財) 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—鎌倉 稔成(理事長) / 三分一 史和(庶務理事)
竹内 恵行(広報理事) / 西埜 晴久(広報委員)
入戸野 健(広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|---|
| 1. 巻頭随筆：統計学とパスカル…… 杉原左右一… 1 | 9. 統計検定（2013年11月17日実施）合格者の声
…… 国友直人… 12 |
| 2. 統計検定の今後の予定…… 竹村彰通… 3 | 10. 第1回通常理事会・委員会報告…… 15 |
| 3. 第19回日本統計学会賞について…… 国友直人… 3 | 11. 定時社員総会報告…… 17 |
| 4. 第10回日本統計学会統計教育賞について
…… 国友直人… 4 | 12. MOOCでの統計学講座の提供について
…… 鎌倉稔成… 24 |
| 5. 第8回日本統計学会研究業績賞について
…… 国友直人… 6 | 13. ロシア統計学会設立に立ち会って… 鎌倉稔成… 25 |
| 6. 第7回日本統計学会出版賞について
…… 国友直人… 7 | 14. データサイエンス力の高い人材育成
…… 総務省統計局統計情報システム課統計情報企画室… 27 |
| 7. 第28回日本統計学会小川研究奨励賞について
…… 国友直人… 8 | 15. 新刊紹介…… 28 |
| 8. 2014年度統計関連学会連合大会について(第三報)
…… 山田剛史・大森裕浩・西郷 浩… 8 | 16. 学会事務局から…… 28 |
| | 17. 投稿のお願い…… 29 |

1. 巻頭随筆：統計学とパスカル

杉原 左右一（関西学院大学）

2014年3月末で長年務めた関西学院大学を定年退職しました。この機会に自身の拙い経験をもとにして思いつくことを述べてみたいと思います。

最近日本統計学会が主催する「統計検定制度」が話題になっていますが、日本統計学会会員の皆さんは、以前より「社会調査士・専門社会調査士資格制度」のあることをご存知でしょうか。詳細については「一般社団法人社会調査協会」（JASR: Japanese Association for Social Research）のホームページやパンフレットをご覧くださいと思いますが、実はこの制度の発足当初から、関西学院大学が深くかかわって来たこともあり、また日本統計学会会員の皆さんがこの制度の概要を知っておか

れることも何かの役に立つのではないかと思います。まずこのことについて簡単に述べたいと思います。

「一般社団法人社会調査協会」は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が母体となって発足した経緯があり、社会調査士、および専門社会調査士の資格は、協会が定める「標準カリキュラム」に準拠した科目を設置している資格制度参加校（大学や学部など）に於いて、科目履修すれば取得することができます。2013年4月現在で社会調査士科目設置大学は192校、専門社会調査士科目設置大学は64校あり、2012年10月現在で社会調査士16,359名、専門社会調査士2,219名が育っています。資格取得者は各種の世論調査や、

市場調査の専門家として活躍しています。関西学院大学は、社会学部で、全国に先駆けて1995年よりこの教育に取り組むと共に、東京に協会の事務局が開かれる2009年までの5年間にわたり事務局を引き受けました。「統計検定制度」や「社会調査士・専門社会調査士資格制度」が今後益々有効活用されることを期待しています。

次に学内のことになりますが、1993年より、統計学に関する大学院横断型科目として、「行動科学研究法 A,B,C,D,E」と言う科目群を新設し、現在に至っていることも忘れられません。内容は、線形代数、確率・統計、多変量解析、回帰分析、データ分析を中心に、統計学の中級レベルまでをカバーするものです。現在では多くの大学、大学院で同様の形態のコースが開設されており、もはや目新しいことはありませんが、開設当初はユニークな内容であったこともあり、学内外から注目を浴びた取り組みでした。ささやかではありますが、データ分析のスキルを身につけた研究者を輩出する仕組みを作ることが出来たことを嬉しく思っています。

さて、統計学に於いては、統計的推測理論の研究と共に、データ分析の視点が重要になると思います。

この点に関連して、演繹的、分析的な思考を重視したデカルト（Descartes,René;1596-1650）とは対照的に、共に同時代（17世紀）の数学者でありながら、物事を帰納的、統一的に思考しようとしたパスカル（Pascal,Blaise;1623-1662）は、含蓄のある叙述を数多く残しています。とりわけ『パンセ』（“Pensées”）に、「幾何学的精神と繊細の精神」（“l'esprit de géométrie et l'esprit de finesse”）と題して、論理的な精神と直感的な精神について述べた有名な断章があります。

「幾何学的精神と繊細の精神」は、パスカルが晩年、友人の貴族シュヴァリエ・ド・メレ（De Méré,Chevalier;1607-1684）から示唆を得て、当時の社交界での鋭い人間観察を通して生まれたものであることが知られています。統計学の分野では、取り扱う情報を何らかの方法で計量化した上で、

実際にデータ分析を行うにあたって、どのような統計的モデルを構築し、どのようなデータを用いて分析を行い、得られた分析結果をもとにして、どのように全体像を把握するかが重要になります。その際、『パンセ』のこの断章の内容は、統計学の研究・教育に携わる私達にとっても現在もなお示唆に富むものであると思うのです。とりわけ「繊細の精神」に関する叙述の中で、パスカルは、「よく澄んだ目」（“vue bien nette”）や「正しい精神」（“esprit juste”）の必要性を指摘していますが、これらはいずれも帰納的推論の機微に触れるものであり、現代の私達統計家に、感覚を研ぎ澄ませてデータ分析に携わることが肝要であることを改めて想起させるのです。鋭い直観が、時にデータ分析の機械的な適用による平板な分析結果を遙かに凌駕することがあることを肝に銘じなければならないと思います。

パスカルは、2度の回心体験を経て、キリスト教信仰の道を歩み、惜しくも39歳の若さで亡くなりました。

統計学の研究・教育に携わる者として、パスカルの『パンセ』に述べられているこの「幾何学的精神と繊細の精神」（“l'esprit de géométrie et l'esprit de finesse”）について、しばし思いを巡らせたいと思うのです。

なお、ド・メレについては、パスカルに提示した「分配問題」を端として、パスカルとフェルマー（Fermat,Pierre;1601-1665）との間で、1654年夏から秋に交わされた一連の往復書簡が現在の確率論の始まりとなったことはよく知られているところです。賭け事を好んでいたことには相違ないようですが、当時「教養人」、「紳士」（オネットム）として知られていた人物であり、自身でも「正確さについて」、「魅力について」、「精神について」などに関する論述があります。

（伊吹武彦、渡辺一夫、前田陽一監修、『パスカル全集第一巻～第三巻』（人文書院、1959年）；赤木昭三、支倉崇晴、広田昌義、塩川徹也編集、メナール版『パスカル全集第一巻、第二巻』（白水社、1993、1994年）；安藤洋美訳、『確率論史』（ア

2. 統計検定の今後の予定

東京大学 竹村 彰通（質保証委員会委員長）

次回の統計検定（統計検定2014年11月試験：1級・2級・3級・4級・統計調査士・専門統計調査士，申込受付期間は9月10日（水）～10月17日（金））は11月30日に実施，国際資格RSS/JSS試験（Higher Certificate, Graduate Diploma）は2015年5月，統計検定2015年6月試験（2級・3級・4級）は6月に実施の予定です。

詳しくは統計検定のホームページ

<http://www.toukei-kentei.jp/>

をご参照ください。

学生指導を含めて統計学会の会員の皆様の協力を期待しています。

3. 第19回日本統計学会賞について

日本統計学会長 国友 直人（東京大学）

[1] 受賞者氏名：江口 真透 氏

略歴：1977年3月 大阪大学理学部数学科卒業，1979年3月 大阪大学大学院基礎工学研究科数理系修士課程修了，1983年12月 大阪大学大学院基礎工学研究科数理系博士課程中退，1984年1月 広島大学理学部助手，1988年4月 島根大学理学部講師，1990年6月 同助教授，1995年4月 統計数理研究所統計基礎研究系助教授，1996年4月 同教授，2005年4月 統計数理研究所数理・推論研究系教授

授賞理由：江口真透教授は，統計学の様々な理論研究の発展に寄与するとともに，多くの研究者に影響を与えている．特に注目すべき点としては，相対エントロピーを含め，様々なダイバージェンスに基づいて統計的手法にアプローチすることにより，様々な手法に対して統一的な観点や新しい切り口を見出されたこと，また，機械学習に統計学の視野からアプローチし，同時に，古典的な統計学に機械学習のコンセプトを導入したことが挙げられる．さらに，理論研究を行うに当たって，実データも強く意識されていたことは特徴的である．Prof. Copas との共同論文は，既に日本統計学

会研究業績賞にも選ばれている．また，多くの博士号取得者を輩出していることに加えて，日本の多くの若手統計学者に機械学習への興味を抱かせ影響を与えた．

同氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は，日本統計学会賞にふさわしいものである．

主要業績：

[1] Second order efficiency of minimum contrast estimators in a curved exponential family, Ann. Statist., 11, 793-803, 1983.

[2] A class of local likelihood methods and near-parametric asymptotics, J. R. Statist. Soc. B, 60, 709-724, 1998. Coauthored with J. Copas.

[3] A class of logistic-type discriminant functions, Biometrika, 89, 1-22, 2002. Coauthored with J. Copas.

[4] Information geometry of U-Boost and Bregman divergence, Neural Computation, 16, 1437-1481, 2004. Coauthored with N. Murata, T. Takenouchi, and T. Kanamori.

[5] Local model uncertainty and incomplete data bias (with discussion), J. R. Statist. Soc. B, 67, 459-512,

2005. Coauthored with J. Copas.

[2] 受賞者氏名：杉山 高一 氏

略歴：1963年 東京理科大学理学部卒業，1965年 東京理科大学大学院理学研究科修了，1965年 青山学院大学理工学部専任講師，1971年 川崎医科大学助教授，1974年 文部科学省・統計数理研究所研究指導普及室長，1980年 中央大学理工学部教授，1999年 中央大学大学院理工学研究科長，2010年 中央大学名誉教授，創価大学 客員教授。

授賞理由：多変量解析の理論研究において多くの優れた研究業績を挙げた。特に，主成分分析に関連する分野を中心として成果を得ている。大学院生のとき2変量正規母集団における一般的な母共分散行列における固有ベクトルの分布を導出し，その後， p 次元へと一般化した結果を導出している。固有ベクトルだけではなく，主成分分析で重要な最大固有値や最小固有値に関する分布論についても，成果を挙げている。近年では，高次元標本についての主成分分析に関連する分野やbootstrap法やpermutation法などの計算機を用いた多変量解析でも成果を得ている。また，日本統計学会理事長，会長の重責も果たし，その後も日

本統計学会75周年記念事業委員長として，統計学界の発展に大きく貢献した。

杉山高一氏のこのような統計学の発展及び普及に対する多大な貢献は，日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績：

[1] On the distribution of the largest latent root and the corresponding latent vector for principal component analysis. Ann. Math Statist., 37 (4), 995-1001, 1966.

[2] On the distribution of the largest latent root of the covariance matrix. Ann. Math Statist., 38 (4), 1148-1151, 1967.

[3] Distributions of the largest latent root of the multivariate complex Gaussian distribution, Ann. Inst. Statist. Math., 24, 87-94, 1972.

[4] Recurrence relations of coefficients of the generalized hypergeometric function in multivariate analysis, Comm. Statist. Theory Methods, 28, 825-837, 1999. Coauthored with M. Fukuda and Y. Takeda.

[5] 「多変量データ解析入門」(1983)，朝倉書店。

[6] 「統計データ科学事典」(2007)，朝倉書店。

4. 第10回日本統計学会統計教育賞について

日本統計学会長 国友 直人（東京大学）

[1] 受賞者氏名：橋本 三嗣 氏

略歴：1997年 広島大学教育学部教科教育学科数学教育学専修卒業，1999年 広島大学大学院教育学研究科教科教育学（数学科教育）専攻博士課程前期修了，2002年 広島大学大学院教育学研究科教科教育科学（数学科教育）専攻博士課程後期単位取得退学，2002年 広島県立尾道北高等学校教諭，2006年 広島県立大和高等学校教諭，2008年 広島大学附属中・高等学校教諭（現在に至る）

授賞理由：橋本氏は，教育実践例の少なかった中学校や高等学校の数学科における統計内容において，積極的に授業開発に取り組んできている。特

に，「実践的な問題解決場面を想定して，どのように統計的なアプローチを進めていくのか」という難しいテーマに対して，問題解決能力の育成を目指したBorland Mathの教材を利用した授業づくりに取り組んだり，データスタジアムのプロ野球データを用いた学生コンペティションを授業に取り入れたりするなど，これまでにない新しい形の統計教育の方法に取り組んでいる。その中で，生徒が主体的に活動する統計の授業を構想・実施し，生徒の反応をもとに教材と指導方法の両面について詳細に検討している。また，それらの研究成果を全国算数・数学教育研究大会や統計教育方

法論ワークショップで発表し、理数系教員指導力向上研修会でも講師を務めるなど、新しい形の統計教育を目指す先生方に大きな影響を与えており、今後の問題解決を目指した統計教育の推進に大きな役割を果たしてきている。

橋本氏のこれらの活動は統計教育のこれからの発展に大きく貢献するものであり、統計教育賞にふさわしいものである。

主要業績：

- ①橋本三嗣（2012）「データの分析の指導－相関を中心にして－」、『統計教育実践研究』第4巻 pp.112-115
- ②橋本三嗣（2012）「問題解決能力を培う学習活動の工夫－Bowland Math.の教材を用いて－」、『第94回全国算数・数学教育研究（福岡）大会』p.360
- ③橋本三嗣（2013）「学びの質を高める「資料の活用」の授業－バスケットボールのフリースローを題材にして－」、『統計教育実践研究』第5巻 pp.117-120
- ④橋本三嗣（2013）「数学的活動を生かした「データの分析」の指導－グループ活動における思考の深まりについて－」、『第95回全国算数・数学教育研究（山梨）大会』p.386

[2] 受賞者氏名：前川 恒久 氏

略歴：1967年 日立製作所工事部門（日立工事）入社、1983年 広報課長、研修センター講師（QCサークル地区活動への参加）、1988年 人事本部・全社経営改革運動事務局 MI（Management Innovation）推進センター長、2002年 2002年度 QCサークル関東支部京浜地区代表幹事、2005年 株式会社アイネス入社（リスク管理室 兼 研修センター講師）、現在 QCサークル関東支部京浜地区顧問（QCサークル上級指導士）

授賞理由：前川氏は、QCサークル上級指導士（日本科学技術連盟による認定資格）としての産業界における統計的問題解決力育成指導の経験と

実績に基づき、今回の学習指導要領改訂に伴う教育現場の支援を積極的に行っている。特に、理数系教員指導力向上研修（香川県、広島県）での講演や、JSTによるスーパーサイエンスハイスクールおよびサイエンスパートナーシッププログラムによる高校現場での講演をはじめとして、中学校から大学まで幅広い校種で講演を行うなど、積極的に統計教育の普及活動を行ってきた。特に、前川氏が企業在職中に品質管理基礎研修のために考案した紙飛行機演習、それを小中高の学校教育用にアレンジした「折り紙の犬の顔によるデータに基づく問題解決」演習教材は、「統計」関連の授業を行う際の基本となる“データ”の採り方からデータの変動要因の具体的な探索と結果をアクションに活かす過程まで、児童・生徒が楽しみながら学ぶことができる教材として、高い評価を得ており、「標準化と品質管理」や「週刊教育資料」等で取り上げられている。

前川氏のこれらの活動は、企業での実践的な統計の活用を学校教育に反映させる意味で非常に価値のあるものであり、統計教育賞にふさわしいものである。

主要業績：

- ①前川恒久（2012）「統計リテラシー開発に必要な実践的教材」、『日科技連出版社発行、『問題解決学としての統計学』渡辺・椿編著、第5章、pp.138-188.』
- ②前川恒久（2013）「新・シゴトの基本～社会人の自覚と責任」、『日本規格協会発行、月刊『標準化と品質管理』、2013年4月号、pp.2-20.』
- ③前川恒久（2013）「小中高等学校の先生向け～折り紙を折って測って見たらバラバラ」、『日本統計教育委員会発行、理数系教員授業力向上研修予稿集（香川・広島）』
- ④前川恒久（2014）「折り紙を折って、測って、データを採ろう！」、『統計教育実践研究』第6巻、pp.51-56.』

5. 第8回日本統計学会研究業績賞について

日本統計学会長 国友 直人（東京大学）

[1] 受賞者氏名：笠原 博幸 氏，下津 克己 氏（共同受賞）

略歴：（笠原 博幸 氏）1995年 筑波大学国際関係学類卒業，1997年 筑波大学国際政治経済学研究科修士課程修了，2002年 ウィスコンシン大学マシソン校経済学部 Ph.D.，2002年 クイーンズ大学経済学部助教授，2004年 ウェスタンオンタリオ大学経済学部助教授，2009年 プリティッシュコロンビア大学経済学部助教授，2013年 同准教授。現在に至る。

（下津 克己 氏）1993年 東京大学教養学部卒業，2000年 エセックス大学経済学部講師，イェール大学経済学部 Ph.D.，2003年 クイーンズ大学経済学部助教授，2008年 同准教授，2009年 一橋大学大学院経済学研究科教授，2011年 東京大学大学院経済学研究科教授。現在に至る。

授賞理由：両氏は主として有限混合分布モデルの識別性に関する顕著な業績を近年修めている。動学的離散選択の異質性を説明するために用いられる様々な有限混合モデルにおいて，成分数や各成分の選択確率・分布等に関する識別性の条件を導出し，さらに多変量有限混合モデルにおいて，次元数が2以上であるときに観測データの分布関数から構築される行列の階数から，成分数の下限がノンパラメトリックに識別可能であることおよびその推定方法も示している。この他にも不動点制約のある構造モデルの逐次推定において，ネストされた疑似尤度アルゴリズムが一致推定量に収束する条件を導出し，さらにそれが収束しない場合に代替的な逐次推定法を提案するなど，計量経済学理論とその応用研究の発展に貢献している。

以上により，両氏の業績は日本統計学会研究業績賞として顕彰するに相応しいものである。

主要業績：

[1] Hiroyuki Kasahara and Katsumi Shimotsu (2014),

“Nonparametric identification and estimation of the number of components in multivariate mixtures,” *Journal of the Royal Statistical Society: Series B*, 76 (1), 97-111.

[2] Hiroyuki Kasahara and Katsumi Shimotsu (2012), “Sequential estimation of structural models with a fixed point constraint,” *Econometrica*, 80 (5), 2303-2319.

[3] Hiroyuki Kasahara and Katsumi Shimotsu (2009), “Nonparametric identification of finite mixture models of dynamic discrete choices,” *Econometrica*, 77 (1), 135-175.

[2] 受賞者氏名：増田 弘毅 氏

略歴：1999年 早稲田大学理工学部情報学科卒業，2001年 東京大学大学院数理科学研究科修士課程修了，2004年 東京大学大学院数理科学研究科博士課程修了（数理科学博士），2004年 九州大学大学院数理学研究院助手，2010年 九州大学大学院数理学研究院准教授，2011年 九州大学マス・フォア・インダストリ研究所准教授。現在に至る。

授賞理由：増田弘毅氏はこれまで，ジャンプ型確率過程モデルに対する統計的漸近論の基礎構築において幅広く貢献してきている。とくに，ジャンプ型確率微分方程式からの高頻度データで現れる漸近特異性（Fisher 情報量行列が常に退化）や，固定期間でのトレンド構造の一致推定可能性など，拡散過程モデルの場合とは著しく異なる現象が起こることを解明した。これは尤度解析の適用範囲を規定し，非正規性を有するデータ解析の理論に新たな知見を与えるものであり，実証研究への影響も大きい。増田氏の研究対象は統計解析の理論と実装のためのツールの整備にも及び，とくにジャンプ型確率微分方程式の長期安定性に関する基礎的な結果も導出している。それらは確率過程論

でも標準的結果として位置づけられるが、これにより、例えばジャンプ型確率微分方程式の解の汎関数から成る統計量の漸近展開理論の為の本質的な十分条件の検証が可能となったため、統計的高次漸近論への多大な貢献でもある。

以上の通り、ジャンプ型確率過程モデルの統計解析に関して幅広く貢献する増田氏の業績は、日本統計学会研究業績賞として顕彰するに相応しいものである。

主要業績：

[1] Masuda, H. (2010), Approximate self-weighted LAD estimation of discretely observed ergodic Ornstein-Uhlenbeck processes. Electronic Journal of

Statistics, 4, 525-565.

[2] Kawai, R. and Masuda, H. (2013), Local asymptotic normality for normal inverse Gaussian Lévy processes with high-frequency sampling. ESAIM: Probability and Statistics, 17, 13-32.

[3] Masuda, H. (2013), Asymptotics for functionals of self-normalized residuals of discretely observed stochastic processes. Stochastic Processes and their Applications, 123, 2752-2778.

[4] Masuda, H. (2013), Convergence of Gaussian quasi-likelihood random fields for ergodic Lévy driven SDE observed at high frequency. Annals of Statistics, 41, 1593-1641.

6. 第7回日本統計学会出版賞について

日本統計学会長 国友 直人（東京大学）

受賞出版物：“Markov Bases in Algebraic Statistics,” 2012, Springer.

受賞者氏名：青木 敏 氏・竹村 彰通 氏・原 尚幸 氏 （共同受賞）

略歴：（青木 敏 氏）2000年東京大学大学院工学系研究科博士課程退学，2000年東京大学大学院工学系研究科助手，2005年鹿児島大学理学部准教授，博士（情報理工学）。

（竹村 彰通 氏）1982年米国スタンフォード大学大学院統計学科修了，1984年東京大学経済学部助教授，1997年同教授，2001年東京大学大学院情報理工学系研究科教授，Ph.D.

（原 尚幸 氏）1999年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了，1999年東京大学大学院工学系研究科助手，2011年新潟大学経済学部准教授，博士（工学）。

授賞理由：本書は代数統計学において中心的な話題であるマルコフ基底について、著者達の研究成果を含めて理論の全体的な解説を与えた図書であり、洋書を含めても、現状で唯一の体系的な教科書である。

第一部では、まず独立性の正確検定を例題として、マルコフ基底の概念が無理なく導入されている。さらに、マルコフ連鎖モンテカルロ法やグレブナー基底の基本事項が要領よくまとめられている。第二部では、統計モデルとトーリックイデアルの対応や、マルコフ基底とトーリックイデアルの生成系の同値性を主張する Diaconis-Sturmfels の基本定理の詳しい証明などが与えられ、予備知識のない読者も代数統計の分野を基礎から学ぶことができる。第三部以降では、著者達のこの分野の研究成果の基づき、さまざまな分割表のモデルのマルコフ基底、応答変数が離散の場合の一部実施要因計画の正確検定のためのマルコフ基底、制約のある選択問題に対するマルコフ基底、などの具体形が与えられている。具体的な数値計算も例示され、マルコフ基底の実際問題への応用も配慮されている。

以上のように、理論と応用のバランスがとられた本書は日本統計学会出版賞として顕彰するに相応しいと考える。

7. 第28回日本統計学会小川研究奨励賞について

日本統計学会長 国友 直人（東京大学）

第28回日本統計学会小川研究奨励賞の受賞者と受賞論文は、以下のとおり決定いたしました。

受賞者氏名：鎌谷 研吾 氏（大阪大学大学院基礎工学研究科）

受賞論文：“The Order of Degeneracy of Markov Chain Monte Carlo Method,” Journal of the Japan Statistical Society, Vol.43, No.2, pp.203-220, (2013).

受賞論文の評価：ベイズ統計学ではマルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法が基本的なツールとして広く利用されている。一方でMCMC法の計算量はしばしば膨大となるので、計算量の軽減のため、データやモデルに応じて適切なMCMC法

を選択する必要がある。今回受賞対象となった鎌谷氏の論文では、複数のMCMC法の比較手法が提案された。先行研究では、アドホックな基準を除けば、マルコフ連鎖のエルゴード性による大域的な評価が一般的であった。これに対し、受賞論文では古典的な漸近統計学にもとづき、モデルの正則性、非正則性に着目し、パラメータの漸近収束レートによる精密な方法が提案された。モンテカルロ法の理論的研究は実用面、応用面からも重要なトピックであるが、その分野に貢献した受賞論文は日本統計学会賞小川研究奨励賞にふさわしい論文である。

8. 2014年度統計関連学会連合大会について（第三報）

2014年度統計関連学会連合大会

運営委員会委員長 山田剛史（岡山大学）

実行委員会委員長 大森裕浩（東京大学）

プログラム委員会委員長 西郷 浩（早稲田大学）

2014年度統計関連学会連合大会の第一報、第二報に続き、「第三報」をお届けします。本報が本大会に関する最後のご案内です。本報は連合大会について簡潔にまとめを行い、皆様の便宜をはかりたいと思います。今後、詳細プログラムや変更事項は、連合大会のウェブページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2014/>

に掲載いたしますので、どうぞご参照ください。

すでに5月8日（木）から6月9日（月）まで講演申し込みを受け付けいたしました。おかげさまで、企画セッション講演81件（企画セッション20）、コンペティション講演29件、一般講演203件の申し込みを頂きました。これに加えて、ソフトウェアセッション6講演があり、総講演319件と

なりました。誠にありがとうございました。

1. 日程など

本大会に関する今後の日程は次の通りです。

大会開催日程：9月13日（土）から16日（火）までの4日間

9月13日（土）：チュートリアルセッションと市民講演会

9月14日（日）～16日（火）：本大会

場所：東京大学本郷キャンパス

共催：応用統計学会、日本計算機統計学会、

日本計量生物学会、日本行動計量学会、

日本統計学会、日本分類学会、

統計教育大学間連携ネットワーク※

※（略称 JINSE）文部科学省 大学改革推進
等補助金 大学間連携共同教育推進事業 平成
24年度採択「データに基づく課題解決型人材育
成に資する統計教育質保証」

懇親会：9月15日（月）18：10～20：00

（本郷キャンパス内の「山上会館」）

事前参加申込：

7月17日（木）9：00～8月20日（水）17：00

報告集原稿締切：7月8日（火）17：00

2. 会場

本大会は、初日の9月13日（土）に、チュートリアルセッションと市民講演会を東京大学本郷キャンパスの経済学研究科棟で開催します。2日目から4日目の9月14日（日）から16日（火）に、各種セッション講演を同所の経済学研究科棟、経済学研究科学術交流棟（小島ホール）、教育学部棟、赤門総合研究棟、医学部1号館および2号館で行います。

東京大学本郷キャンパス 〒113-8654 文京区本郷
7-3-1 電話：03-3812-2111（代表）

- (1) 東京大学本郷キャンパスへのアクセスは、連合大会ウェブページの「会場」欄をご参照下さい。東京メトロ丸ノ内線本郷三丁目駅から徒歩約8分、都営地下鉄大江戸線本郷三丁目駅から徒歩約5分です。
- (2) 「経済学研究科棟」などへのアクセスも、ウェブページの「会場」欄をご参照下さい。
- (3) 9月14日（日）、15日（月）に東京大学構内で昼食が取れる場所は、中央食堂（安田講堂前広場地下）と一部のカフェのみとなります。
- (4) 懇親会は、9月15日（月）夕方に東京大学本郷キャンパス内にある「山上会館」で行います。
- (5) 無線LANサービスの提供はございません。

3. 参加申し込み

連合大会ウェブページで、大会と懇親会に事前申し込みできます。連合大会ウェブページの「申

込」欄よりお手続き下さい。事前申し込み期間は2014年7月17日（木）9：00から8月20日（水）17：00までです。カード決済と銀行振り込みがあります。事前申し込みにより、参加費等が大幅に割引されます。ぜひご利用下さい。

大会参加費（講演報告集代を含む）、チュートリアルセッション参加費（資料代を含む）とも会員（共催6学会の学会員）・学生（学会員、非会員を問わず）・学生以外の非会員により参加費が異なります。また、懇親会参加費は、一般（学会員・非会員を問わず）・学生（学会員・非会員を問わず）により参加費が異なります。詳しくはウェブページの「大会詳細」をご覧ください。市民講演会は無料です。

なお、統計関連学会連合所属学会会員以外の招待者（企画セッション講演者、討論者等）の方を除き、すべての講演者（一般・企画セッション・コンペティション講演を問わず）の方も参加申し込みの手続きが必要です。お忘れなきよう、よろしくお願いいたします。

4. 保育室

今年度は、保育室を開設します（完全予約制）。

※会場準備のため締め切りが早くなっておりますのでご注意ください。

設置期間：9月14日（日）～16日（火）（13日は設置しません）

設置時間：プログラム開始30分前から終了30分後まで

場所：原則として、東京大学本郷キャンパス内

対象：原則0歳児から6歳児（小学校入学前）まで

保育者：保育士

締切：8月8日（金）17：00

申込先：佐藤整尚（実行委員）

seisho_at_e-u.tokyo.ac.jp（_at_を@に変更ください）

完全予約制ですので、利用を希望される方は、できるだけ早くメールにて上記までご連絡下さい。詳細についてお知らせいたします。また、お問い

合わせの際には、暫定の利用日時とお子様の年齢をお知らせいただくと助かります。詳細な利用規定や正式の申込書・同意書については、後日お送りいたします。

5. 大会プログラム

プログラムおよび大会案内は連合大会ウェブページで公開し（8月上旬までに公開予定）、各学会にもお知らせします。ウェブページにはHTML版およびPDF版を用意いたします。プログラムは講演報告集にも掲載します。各学会を通じての印刷物冊子配布はございません。ご注意ください。

なお、講演者および共同発表者の所属は原則として講演申し込み時に入力頂いたものです。

6. チュートリアルセッション

チュートリアルセッションのテーマは下記の2つです。具体的な内容については、第二報をご覧ください。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日時：2014年9月13日（土）13：00～16：00

場所：東京大学本郷キャンパス 経済学研究科棟
1階

受付開始：12：30

テーマ1：公的統計の二次的利用－申請手続きを中心に

講演者：小林良行 先生（元総務省 統計研修所）・
中村英昭 先生（総務省）

場所：経済学研究科棟3階 第2教室

テーマ2：マッチングと統計解析

講演者：岩崎 学 先生（成蹊大学）

場所：経済学研究科棟地下1階 第1教室

2つの講演は同じ時間帯に開催されますので、どちらか一方のテーマをお選びください。なお、途中でもう一方のテーマへ移動されても追加料金は

はかかりません。

事前参加受付は、2014年度統計関連学会連合大会のウェブページの「申し込み」欄から手続きできます（8月20日（水）17時まで）。当日参加も受け付けますが、あらかじめ参加費を納めていただく場合、大幅な割引が受けられます。当日受付の場合、参加費（資料代含む）は、会員（共催、協賛の6学会の会員）4,000円、学生（会員・非会員を問わず）4,000円です。学生以外の非会員は8,000円です。

7. 市民講演会

市民講演会は、以下のテーマで2名の先生方にご講演をお願いいたしました。具体的な内容については、第二報をご覧ください。2つの講演は別の時間帯に開催されますので、両方参加することもできます。多くの方々のご参加をお待ちしております。参加費は無料です。

日時：2014年9月13日（土）16：30～18：00

場所：東京大学本郷キャンパス 経済学研究科棟
地下1階 第1教室

受付開始：15：30

テーマ1：統計からみた保険の仕組み

講演者：杉田 健 先生（三井住友信託銀行）

時間：16：30～17：15

テーマ2：漱石の目指した統計科学

講演者：椿 広計 先生（統計数理研究所）

時間：17：15～18：00

8. 企画セッション、ソフトウェア・デモンストレーションセッション一覧

企画セッションとソフトウェア・デモンストレーションセッションを設けます。各セッションが配置されている時間帯、会場、テーマとオーガナイザー氏名（所属）は以下の通りです。詳細プログラム、テーマのねらいや講演者・講演タイトル等につきましては連合大会のウェブページをご覧ください。

下さい。

企画セッション名とオーガナイザー

9月14日（日）10：00～12：00

A会場 スポーツにおけるビッグデータの活用
酒折文武（中央大学）

B会場 日本計量生物学会シンポジウム：メタアナリシスにおける最近の展開 手良向聡（金沢大学）・野間久史（統計数理研究所）

E会場 GLS の理論的研究の魅力と実証的有效性 倉田博史（東京大学）

9月14日（日）13：00～15：30

A会場 公的統計におけるオープンデータ化の取組 坂下信之（統計センター）

B会場 日本計量生物学会 奨励賞受賞者講演
手良向聡（金沢大学）

F会場 金融リスク管理における統計的方法 塚原英敦（成城大学）

9月14日（日）15：30～17：30

A会場 データ中心政策科学の実践と展開 北川源四郎（情報・システム研究機構）・椿広計（統計数理研究所）

C会場 日本分類学会シンポジウム：主成分分析の拡張と新展開 足立浩平（大阪大学）

9月15日（月）10：00～12：00

A会場 法・裁判と統計学 石黒真木夫（統計数理研究所名誉教授）

B会場 ビッグデータ / オープンデータ利活用人材育成に向けた統計教育の推進と質保証 藤井良宜（宮崎大学）・竹内光悦（実践女子大学）・渡辺美智子（慶應義塾大学）

I会場 応用統計学会 学会賞受賞者講演 大西俊郎（九州大学）・黒木学（統計数理研究所）

9月15日（月）13：00～15：00

A会場 統計科学と保険 小暮厚之（慶應義塾大学）・田中周二（日本大学）

B会場 日本統計学会 各賞受賞者記念講演 1
鎌倉稔成（中央大学）

I会場 応用統計学会シンポジウム：技術開発プロセスを加速させるための知の統合 竹内恵行（大阪大学）・渡辺美智子（慶應義塾大学）・椿広計（統計数理研究所）

9月15日（月）15：30～17：30

A会場 日本計算機統計学会企画セッション：計算機統計学による大規模医療・生態系データ解析 石橋雄一（スタットラボ）・石岡文生（岡山大学）

B会場 日本統計学会 各賞受賞者記念講演 2
鎌倉稔成（中央大学）

C会場 スパース正則化による統計的推測 藤澤洋徳（統計数理研究所）

9月16日（火）10：00～12：00

A会場 統計教育大学間連携ネットワーク（JINSE）の取り組み状況と今後 美添泰人（青山学院大学）

B会場 スポーツビジネスの計量分析：プレーヤーとファンの相互作用を探索 水野誠（明治大学）

C会場 高頻度従属データの推測理論 増田弘毅（九州大学）

9月16日（火）13：00～15：00

B会場 スポーツ統計科学の方法論 竹内光悦（実践女子大学）

文部科学省科学技術試験研究委託事業「数学・数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラム（略称：数学協働プログラム）」による数学協働プログラム・ワークショップ「統計科学の最先端と産業界・諸科学への展開」の開催について

共催：東京大学経済学研究科・文部科学省（統計数理研究所）・統計関連学会連合

9月14日（日）10：00～17：30、15日（月）10：

00～17：30

企画セッションのうち、「スポーツにおけるビッグデータの活用」、「公的統計におけるオープンデータ化の取組」、「データ中心政策科学の実践と展開」、「法・裁判と統計学」、「統計科学と保険」、「計算機統計学による大規模医療・生態系データ解析」については数学協働プログラム・ワークショップ「統計科学の新展開と産業界・社会への応用」として実施し、参加費無料といたします。

趣旨：統計科学は、我々の産業界・社会における広範囲の分野においてその応用が急速に進んでおり、数学・数理科学的な知識を活用することで様々な社会現象を解明する試みがなされ、その洞察に基づいた諸問題に対する解決方法が提案されている。具体的には支配原理や法則が明確ではない諸現象を確率的な事象として解釈し、そのメカニズムを記述・解明する統計モデルを構築することで現象の理解・解明・検証を行い、将来の予測や仮想的なシミュレーションを通じて、諸問題の解決への提案を行う。本ワークショップは、特に産業界・社会における新しい課題・ニーズを重視して上記の6つの企画セッションを取り上げることとし、統計科学によるそれらの問題への解析・解決の方法について明らかにしていくことを目的とする。

ソフトウェア・デモンストレーション セッショ

ン

下記の日時・会場で6つの報告がございます。
ふるってご参加ください。

9月15日（月）13：00～15：00 C会場

9. コンペティション

今年度も若手会員の質の高い研究・発表の奨励を目的としてコンペティションを実施します。コンペティション講演セッションは、9月14日（日）～15日（月）にD会場で行います。発表時間は質疑を含めて20分とさせていただきます。なお、表彰式は15日（月）17：40からB会場にて行います。詳細は連合大会のウェブページ「コンペセッションの概要について」をご覧ください。

10. 統計関連学会連合大会特別セッション

統計関連学会連合は、大学における統計教育の指針として、「統計学の各分野における教育課程編成上の参照基準」を作成しました。統計関連学会連合は、この参照基準の統計教育・研究上の重要性に鑑みて、今年度の連合大会において特別セッションとしてこれを取り上げ、討論の場を設けます

9月16日（火）12：10～12：40 A会場

統計関連学会連合大会特別セッション

座長：鎌倉稔成（中央大学）

報告者：岩崎学（成蹊大学）「統計学の各分野における教育課程編成上の参照基準について」

9. 統計検定（2013年11月17日実施）合格者の声（続）

国友 直人（日本統計学会会長）

前号に引き続き、2013年統計検定の合格者よりいただいた声を掲載します。

1級（医薬生物学）合格

宇野 慧さん（会社員）

医療機器メーカーで統計解析の仕事をしている関係で、統計検定は2011年に2級、12年に1級と3

年連続で受験しています。仕事をしながら勉強時間を捻出するのは非常に大変でしたが、今回1級に成績上位で合格でき、非常に喜ばしく思います。

今回の試験では応用分野の問題選択の自由度が高まりましたが、その分難易度は上がり、分量も増えたため全体的に難化した印象でした。日頃ソフトウェアを利用して求める統計量の理論的意味

合いや、結果の解釈など、幅広い知識が求められ、改めて勉強不足を痛感しました。

受験にあたり、数理分野は公式テキストや過去問に加え、問題演習量を増やすために DeGroot & Shervish の “Probability and Statistics (4th ed).” などで勉強しました。また The Royal Statistical Society (RSS) の Graduate Diploma の問題が過去10年分以上公開されていますので、これを使って勉強するのも良いかと思います。

応用分野（医薬生物学）の参考書・問題集探しには苦労しましたが、公式テキストの参考文献や Armitage, et al. の “Statistical Methods in Medical Research (4th ed)” などで勉強しました。医薬生物学を選択する方であれば仕事柄、関連する内容を扱うことも多いと思いますので、その都度試験を意識しながら取り組むことも、良い対策になると思います。

今後は1級合格の名に恥じないよう、継続的に学習を続け能力を磨いてまいります。2014年からは Graduate Diploma も開催されますので、受験を積極的に検討したいと思います。今後統計検定が発展普及し、統計能力の証明として幅広い領域で活用されることを期待致します。

2級合格

大澤隆之さん（医師、医療コンサルタント）

統計という教科をまともに学んだことはこれまで一度もありませんでしたが、昨今統計的な分析や手法の大切さが叫ばれ始めたことで意識するようになりました。そしていくつかの本を読んで学びました。

論文をただ読むだけでは表面的なことしか分からず、作られた結果に踊らされるような現実があります。日々多忙な臨床医にとって、統計的なデザインや手法をきちんと理解するのはなかなか大変なことで、製薬会社から提供されたデータだけを鵜呑みにしている医師が多いのが現実です。

統計はデザインの仕方、解析の仕方次第で時に違った結果を導くことも可能だと思います。医療の現場では莫大なお金が動きますから、現実には

利益供与などの問題もあり、作られた正しさの中で、盲目的に支配されている医療従事者が多いことも否めません。国際的にも最近になってやっとこの点が問題視され、データ改ざんなどの報道も時に見受けられるようになりました。

統計をきちんと勉強して学ぶ中で、そのデータが真に意味するものは何かを理解することは経済や学問の現場だけではなく、医療や福祉の現場でも非常に大切であると思われました。

もしそうしないならば、良かれと思いこんでいたことが、時に患者さんにとって悪いことをしていることにすら気づかないことがありますからです。

今後は、医療や福祉系の大学においても、統計的考え方・統計的手法を学ぶべく統計の授業により重きを置いていくべきであると思います。統計は、今後英語同様に国際的リタラシーとして必要な存在になっていくのではないのでしょうか？

2級合格

村田裕志さん（アズビル株式会社）

(1) 受験のきっかけ

私は仕事の中でデータ分析をする機会が多く、分析結果が人の意思決定に大きな影響を与えることを見してきました。今でも「あのとき別の視点でデータを分析し、報告していれば……」と思うことがあります。

振り返ってみると、学生時代から現在に至るまでデータ分析に必要な知識を体系的に学んだことはありませんでした。そのため、客観的にデータを分析する統計の知識や手法を習得したいと思うようになりました。

独学で統計の勉強をしましたが、何をどこまで勉強すればよいのか分からず、習熟度を客観的に測る手段を探していました。そんなときインターネットで統計検定の存在を知りました。

(2) 準備したこと

統計についてある程度の知識はあったため、過去問から解き始めました。解説が丁寧に書かれていましたので、間違ったところをしっかりと復習できました。また、知識が曖昧なところは、公式参

考書を確認して理解を深めました。

(3) 工夫したこと

実務への応用を意識しながら学習に取り組みました。たとえば「ヒストグラムはあの実験の分析に使えないか?」「二項母集団の信頼区間を使って点検数を決められないか?」といった感じで、実務と結びつけながら学習すると知識が定着しやすいように思いました。

(4) 結果

実務に応用できそうな統計の知識や手法が少しずつ分かってきました。試験の方は優秀賞まで頂いて本当に驚いています。一層の励みにしていきます。

(5) 今後

統計の知識については、本質を理解していない部分があり継続的な学習が必要だと感じています。実務への応用については、公式参考書で紹介されていた「統計解析システム R」を使い、分析の質を上げていきます。実務を通して、多くの人に統計を知ってもらいたいと思っています。

最後になりますが、社内で前例がない今回の受験を快く承諾し、機会を与えて下さった上司に本当に感謝しています。ありがとうございました。

2級合格

山崎裕市さん(株式会社ブレインパッド)

統計検定については第1回のころから知っていましたが、まだほとんど情報もありませんでしたので、様子を見ていました。

第3回となり、過去の問題からある程度傾向が見えてきて、統計学の基礎的な知識を客観的に確認するのに良さそうだと思います。今回受験しました。

受験の準備として、まず Web にあった過去問題や公式テキストの練習問題を一通り解き、重点的に勉強すべき箇所を確認しました。

その後は主に公式テキストで勉強しましたが、公式テキストで大まかな内容を押さえて、苦手な箇所は東京大学出版会の統計学入門や自然科学の統計学で勉強しました。

公式テキストに関して1点要望を述べさせて頂

きますと、Rを用いて分析を行う前提があるからかもしれませんが、統計数値表が載っていないので、掲載されていると、この本1冊だけで練習問題を解けるのでよいかと思いました。

普段はRを使って分析を行っているため、統計検定量の式の計算などは自分ですることは少なく、重点的に覚えました。また、普段はモデル選択にAICを使うことが多いなど、普段のやり方だけでは本試験範囲に対応できないため、そのような箇所は重点的に勉強しました。

あまり普段は使わないような分野も一通り勉強でき、今回の受験は良い機会となりました。

当日は電卓を忘れ焦りましたが、無事合格できてほっとしています。

統計ツールを用いてデータ分析を行うには2級でおおよそ十分なレベルだと思いますが、複雑な統計モデルを扱うにはより数学的な理解が必要になりますし、自身の更なるスキルアップのためにも、1級にも挑戦したいと考えています。

3級合格

藤本祥和さん(会社員)

3級に合格するのなら、まず公式テキスト『データの分析』をやってみるのがいいと思う。1日1章なら、17日。それから過去問をいくつかこなせば、合格ラインはクリアできるはず。

わたしの場合はたまたま統計の市民講座を受講したとき、2ヶ月後に検定があることを知った。2級か3級を受けてみようと思い『完全独習 統計学入門』(小島寛之・ダイヤモンド社)でしばらく勉強した。これも良書だと思う。

そのうち仕事が忙しくなり、3級に絞って受験することに決めた。結局、試験前の数日で慌てて公式テキストを読むことになった。それから、テキストの実践問題と、ホームページからダウンロードした過去問と。

本番のテストは、過去問よりもやや難しかったように思う。つかえた問題は後回しにして、最後にやり直すと上手くいった。

最近、インターネットで海外の人たちとやりと

りする機会が増えた。たとえば日本の社会状況について質問を受けたとき、単なる印象で答えるよ

りも、具体的なデータを示せた方が話が早い。6月には2級に挑戦してみるつもりである。

10. 第1回通常理事会・委員会報告

第1回通常理事会

日時：2014年5月10日（土）10：00－11：00

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス
会議室

理事の総数 12名 出席理事の数 12名

監事の総数 2名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：国友直人会長、鎌倉稔成理事長、西郷浩（庶務）、三分一史和（庶務）、大野忠士（会計）、西山陽一（会誌編集・欧文）、谷崎久志（会誌編集・和文）、竹内恵行（広報）、勝浦正樹（大会）、渡辺美智子（検定）、宿久洋（企画・行事）、中野純司（国際関係）（以上12名、カッコ内は役割分担）

監事：竹村彰通、矢島美寛

<第1議案> 2013年度事業報告について

鎌倉理事長より、資料に基づき、2013年度事業について報告があり、審議の結果これを承認し、定時社員総会にて報告することとした。

<第2議案> 2013年度決算報告について

鎌倉理事長より、資料に基づき、2013年度決算について報告があり、審議の結果これを承認し、定時社員総会にて報告することとした。

<第3議案> 監査報告について

鎌倉理事長より、資料に基づき、2013年度決算について報告があり、審議の結果これを承認し、定時社員総会にて報告することとした。

<第4議案> 常設委員会委員の委嘱について

鎌倉理事長より、中野理事を国際関係委員会委員（委員長）に委嘱すること（2014年3月7日

付）の提案があり、審議の結果、これを承認した。

<第5議案> 常設委員会委員の委嘱について

鎌倉理事長より、笛田薫大会委員会委員を国際関係委員会委員に委嘱する（大会委員会委員は辞任する）こと（2014年3月7日付）の提案があり、審議の結果、これを承認した。

<第6議案> 理事の辞任と選任について

鎌倉理事長より、辞任の申し出のあった西郷理事の後任者の選任が必要になるため、候補者を選定の上、定時社員総会に諮ることとした（2014年6月21日付）。

<第7議案> 日本統計学会小川研究奨励賞規程の変更について

鎌倉理事長より、資料に基づき、日本統計学会小川研究奨励賞規程にある「40歳以下」を「40歳未満」とすることの提案があり、審議の結果、定時社員総会に諮ることとした。

<第8議案> 会員の入退会（回覧）

鎌倉理事長より示された回覧資料に基づき、内容を承認した。

<第9議案> 定時社員総会召集の件

国友会長より、定時社員総会を以下のとおり招集する提案があり承認した。

1. 日時 2014年6月21日（土曜日）午後1時30分から
2. 場所 中央大学後楽園キャンパス6号館7階6701会議室
3. 会議の目的事項

(1) 定時社員総会における通常の審議

委員会

日時：2014年5月10日（土）11：00～12：30

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス
会議室

出席者：国友直人会長，鎌倉稔成理事長，西郷浩，
三分一史和，大野忠士，西山陽一，谷崎久志，
竹内恵行，勝浦正樹，渡辺美智子，宿久洋，
中野純司，竹村彰通，矢島美寛

<報告事項>

1. 欧文誌委員会

西山委員長より，第28回小川賞の表彰者が報告され，社員総会への報告を経て公表することとした．西山委員長より Vol.44号，No1（2014年6月発行予定）の進捗状況について報告があった．

2. 和文誌委員会

谷崎委員長より，第44巻第1号（2014年9月発行予定）の進捗状況，DOIが付与されたこと，JSTAGEへの申請について報告があった．

3. 大会委員会

勝浦委員長より，資料に基づき，2014年度統計関連学会連合大会に関する報告があった．

4. 企画・行事委員会

宿久委員長より，2013年度春季集会（2014年3月8日同志社大学で開催）と，2014年度春季集会（2015年3月に明治大学で開催予定）について報告があった．

5. 庶務委員会

西郷委員長より，科研費・国際情報発信強化は不採択であったことが報告された．

6. 広報委員会

竹内委員長より，会報 No.159が発行されたこと，本号より30日付けの発行となったことが報告された．

7. 表彰委員会（学会賞各賞選考委員会）

国友会長より5月10日13時より選考委員会が開催されることについて報告があった．

8. 国際関係委員会

中野委員長より，日本統計学会，韓国統計学会 Korean Statistical Society (KSS)，台湾確率統計学会 Chinese Institute of Probability and Statistics (CIPS) と三者間の研究協力協定について報告があった．鎌倉理事長より，4月に開催されたロシア統計学会設立式典に出席したことの報告があった．

9. その他

なし．

<審議事項>

1. 欧文誌委員会

審議事項なし．

2. 和文誌委員会

審議事項なし．

3. 大会委員会

審議事項なし．

4. 企画・行事委員会

宿久委員長より，2014年度春季集会は2015年3月8日（日）に明治大学（中野キャンパス）で開催するとの提案があり，承認された．

5. 庶務委員会

三分一委員より，クレジットカードによる会費支払いの要望があったこと，将来，クレジットカード払いを導入した場合の手数料負担について検討する必要があること，消費税増税にともなう学会運営費の増加に伴う会費の改定の必要性を検討する可能性があることが報告された．

6. 広報委員会

竹内委員長より，学会メーリングリスト利用規

定については引き続き検討中であること、学会ロゴの使用規定、公開方法を今後検討することが報告された。

7. 国際関係委員会

審議事項なし。

8. その他

竹村委員より資料に基づき、日本統計学会とNTTグループによる gacco 統計学講座の開設について事業の説明と現状の報告があった。渡辺委員より一般向け統計教育スキーム案（総務省統計局）におけるデータサイエンス・スクール、通信講座についての事業の説明と現状の報告があった。

11. 定時社員総会報告

日時：2014年6月21日（土）13：30－15：30

場所：中央大学後楽園キャンパス6号館7階
6701会議室

出席者：国友直人会長、鎌倉稔成理事長、青嶋誠、岩崎学、大森裕浩、狩野裕、西郷浩、佐藤朋彦、佐藤美佳、竹内光悦、竹村彰通、田中豊、田村義保、樋口知之、舟岡史雄、前園宜彦、槇田直木、美添泰人、吉田朋広、渡辺美智子（以上代議員20名、委任状6通、議決権行使書7通）（オブザーバー：三分一史和、大野忠士、川崎茂、長塚豪己）

冒頭、国友会長より、定足数確認後、開会宣言がなされ、オブザーバー4名の出席が承認された。また、国友会長より、議事録署名人として樋口知之、田村義保両代議員が提案され、承認された。

審議事項

第1議案 2013年度事業報告及び決算の承認に関する件一定款第12条（5）

鎌倉理事長より、資料に基づき、2013年度事業報告及び決算について報告があり、また、竹村監事より、資料にもとづき、監査について報告があり、審議の結果、2013年度事業報告及び決算を承認した。

また、代議員より60周年記念基に関する規程について指摘があり、調査の上対応することとした。

第2議案 名誉会員の承認に関する件一定款細

則第3条2

国友会長より松田芳郎会員を名誉会員に推薦することが提案され、審議の結果、承認された。

第3議案 日本統計学会小川研究奨励賞規程変更に関する件一定款細則第6条3

理事長より、資料に基づき、小川研究奨励賞規程対象範囲を変更する（「40歳以下」を「40歳未満」に変更）提案があり、審議の結果、提案を承認した。

第4議案 理事の選任に関する件一定款第12条（3）

鎌倉理事長より、辞任の申し出のあった西郷浩理事の後任として、酒折文武理事を選任すること提案があり、審議の結果、提案を承認した。

報告事項（理事会報告）

1. 会員の入退会

鎌倉理事長より、資料に基づき、会員の入退会について報告があった。

2. 資格検定について

竹村代議員より、統計検定の受験者数、収支が順調に推移している旨報告された。

3. その他

鎌倉理事長より、日本、韓国、台湾の3ヶ国連携協定を締結したことの報告があった。

2013 年度事業報告

(2013. 4. 1～2014. 3. 31)

0. 学会の動向

日本統計学会が一般社団法人として 3 年目を迎えた。6 月 15 日に新しい理事会が発足し、国友直人会長、鎌倉稔成理事長を含む 12 名の理事と 2 名の監事、および各種委員会における委員の運営により、引継ぎ後の 10 か月を終えることができた。前理事会から引き継いだ、統計検定事業の継続や大学間連携共同教育推進事業へのステークホルダーの一機関としての参加、など、統計学の普及に大きく貢献した年度であった。

2014 年 2 月 8 日現在の会員の数は 1,494 である（名誉会員 17、正会員 1,399、学生会員 54、賛助会員 17、団体会員 7）。

Ⅰ. 出版編集事業

1. 欧文誌の発行

欧文誌 2 号 [Vol. 43 No. 1 (6 月), No. 2 (12 月)] を発行した。

内訳は原著論文 10 編、全 220 ページであった。

D01 を取得した。科研費・国際情報発信強化に不採択であった。

2. 和文誌の発行

和文誌 2 号 [第 43 巻シリーズ J 第 1 号 (9 月), 第 2 号 (3 月)] を発行した。第 1 号で「ビッグデータと統計学」、第 2 号で「計量経済学におけるファクターモデルの諸問題と展望」の特集を組んだ。

内訳は原著論文 4 編、特集 8 編、会長就任寄稿論文 1 編、受賞者特別寄稿論文 5 編、書評 6 編、その他を合わせ全 387 ページであった。

D01 取得のための手続きを開始した。

3. 会報の発行

No. 155 (4 月), No. 156 (7 月), No. 157 (10 月), No. 158 (1 月) を発行した。

Ⅱ. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第 81 回大会の開催

2013 年 9 月 8 日 (日) ～9 月 11 日 (水)、大阪大学において、統計関連学会連合大会の一環として開催した。企画セッションとして、日本統計学会会長講演、日本統計学会各賞受賞者講演 (各賞授賞式、会員集会) を企画した。

2. 春季集会の開催

2014 年 3 月 8 日 (土) に第 8 回春季集会を同志社大学において開催した。東京以外で開催する初めての春季集会となった。参加者は 154 名であった。

3. 研究部会の活動

2014 年度より活動を開始する部会を募集した (2013 年 12 月 7 日～2014 年 2 月 6 日) が、応募はなかった。

4. 研究分科会の活動

現在、以下の分科会が活動中である。

「スポーツ統計分科会」(田村義保主査：2009 年 6 月発足、2017 年 5 月終了予定)

「金融の計量リスク管理分科会」(塚原英敦主査：2009 年 9 月発足、2017 年 8 月終了予定)

「ベイズ分析研究分科会」(繁樹算男主査：2010 年 11 月発足、2014 年 10 月終了予定)

「統計教育分科会」(藤井良宜主査：2010 年 12 月発足、2014 年 11 月終了予定)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(西山慶彦主査：2010 年 12 月発足、2014 年 11 月終了予定)

5. 常設委員会として、国際関係委員会を設置した。

6. 臨時委員会として、日本統計学会出版企画委員会と日本統計学会産学連携推進委員会を設置した。

7. 統計検定の実施

2013 年 11 月 17 日 (日) に日本統計学会が主体となり、(財)統計研究会および(財)統計情報研究開発センターとの共催事業として第 3 回目の統計検定を実施した。1 級、2 級、3 級、4 級、統計調査士、専門統計調査士の受験申込者数の合計は 4,895 名 (2011 年の第 1 回実施時は 1,210 名、2012 年の第 2 回実施時は 2,692 名) であった。また、2013 年 5 月 25 日 (土)、26 日 (日) には、RSS/JSS 試験を統計検定の一環として行った。

8. 大学間連携共同教育推進事業へのステークホルダーとしての参加の継続

平成 24 年度採択の大学間連携共同教育推進事業 (文部科学省)「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」にステークホルダーとして参加した。事業期間は 2012 年 9 月 27 日より 2016 年度末までである。

Ⅲ. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため、以下の賞を授与した。

第 18 回日本統計学会賞：照井伸彦、山本拓

第 9 回日本統計学会統計活動賞：東京都総務局統計部

第 9 回日本統計学会統計教育賞：川上 貴、横澤克彦

事業報告附属明細書

第7回日本統計学会研究業績賞：内田雅之，狩野裕

第6回日本統計学会出版賞：該当なし

第27回日本統計学会小川研究奨励賞：早川和彦

2. 各種委員会の活動

社員総会（2013年6月15，2014年3月7日）を開催した。

理事会（2013年5月18日，6月15日，7月20日，12月21日，2014年2月8日）を開催した。

役員協議会（2013年9月8日）を開催した。

その他の各種委員会を適宜，開催した。

3. 広報活動の充実

メーリングリストの使用やホームページの充実により，各種情報発信を促進した。

4. 会員名簿の発行・web 会員名簿の更新

会員名簿を発行し，web 会員名簿を更新した（2013年12月）。

IV. その他

なし。

附属明細書に記述すべき事項はない。

正味財産増減計算書		一般社団法人 日本統計学会	2013年度 決算書(連結ベース)	
			2013年4月1日～2014年3月31日	(単位 円)
		13年度予算	13年度決算	備考
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益		13,935,000	14,262,405	
会費収入		10,900,000	10,986,000	
	名譽会員・正会員	10,000,000	10,123,000	
	学生会員	200,000	220,000	
	遡及請求分	700,000	643,000	
賛助人費		890,000	950,000	
団体会員費		240,000	280,000	
科学研究費補助金		500,000	500,000	
雑収入		1,405,000	1,546,405	
	会誌購読料	700,000	535,750	
	利子収入	5,000	13,680	
	広告収入	700,000	800,000	
	その他	0	196,975	著作権許諾料他
(2) 経常費用		19,284,000	13,583,746	
印刷費		7,670,000	7,710,564	*
	会誌(43巻1,2,43-J1,J2号)	6,300,000	6,074,617	
	会報(155-158号)	750,000	822,415	
	名簿印刷費	20,000	393,000	
	その他印刷	600,000	420,532	会誌・会報の封筒作成、大会冊子等
大会開催費		900,000	805,408	
	春季集会開催費	600,000	341,560	
	各賞運営経費	300,000	391,848	
	出版費	0	0	
	その他大会開催費	0	72,000	連合大会賛助会員招待分
研究部会費		300,000	0	
研究分科会費		100,000	20,000	
学会運営会合費		230,000	144,205	
	評議員会(社員総会)	70,000	37,590	
	特別委員会	20,000	37,000	
	統計教育委員会	20,000	0	
	会誌編集委員会	20,000	0	
	理事会	100,000	69,615	
事務費		340,000	380,347	*
	一般事務人件費	20,000	36,000	
	校正編集事務人件費	170,000	68,810	
	発送事務人件費	80,000	84,000	
	事務用品	40,000	39,507	
	その他	30,000	152,030	事務員の交通費・収入印紙他
学会事務業務委託費		2,592,000	2,592,000	
通信・郵送費		1,560,000	1,532,547	
	会誌送料	700,000	612,595	
	会報送料	450,000	456,960	
	名簿送料	10,000	54,770	
	その他通信・郵送料	400,000	408,222	
役員旅費補助		150,000	140,320	
各種分担金		150,000	151,580	*
	日本経済学会連合	35,000	35,000	
	国際統計協会ISI	25,000	26,580	
	横経連合	50,000	50,000	
	統計関連学会連合	40,000	40,000	
ネットワーク維持費		42,000	16,275	ドメイン使用料、学会サーバー委託
国際交流促進費		250,000	20,500	
名簿作成積立金		0	0	
統計検定関係費		0	0	
租税公課		0	70,000	* 都民税
世界統計会議(ISI)派遣補助		5,000,000	0	ISI基金使用予定
当期経常増減額		▲ 5,349,000	678,659	
(うち特定資産以外)		1,000	1,057,874	
(うち特定資産)		▲ 5,350,000	▲ 379,215	ISI派遣補助使用しなかったため
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益		0	3,665,630	
小川基金会議受益		0	3,665,630	
当期経常外増減額			3,665,630	
一般正味財産期首残高		84,668,863	84,668,863	
一般正味財産期末残高		79,319,863	89,013,152	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額		0	0	
指定正味財産期首残高		0	0	
指定正味財産期末残高		0	0	
III 正味財産期末残高		79,319,863	89,013,152	
IV 投資活動収支の部		0	1,500,000	
投資活動収入		0	1,500,000	統計質保証協会宛貸付金回収
投資活動支出		0	0	
V 予備費		3,000,000	0	

(注) 費用項目中予算を超過する項目(*印)があるが全て予備費の範囲内のもの

2013年度決算書			(2014年3月31日現在)		
貸借対照表			(単位 円)		
科目	借方 期首	期末	科目	貸方 期首	期末
I. 資産の部			II. 負債の部		
現預金	9,050,486	11,608,275	未払金	0	0
			負債合計	0	0
貸付金	4,500,000	3,000,000	III. 正味財産の部		
流動資産合計	13,550,486	14,608,275	指定正味財産	0	0
			一般正味財産	84,668,863	89,013,152
			(うち基本財産への充当額)	0	0
学会活動積立金	3,500,000	3,500,466			
60周年記念基金	3,549,941	3,160,073			
75周年記念基金	922,519	922,667			
ISI基金	51,877,162	51,885,482			
ICP基金	11,268,755	11,270,474			
小川基金会	0	3,665,715			
特定資産合計	71,118,377	74,404,877	(うち特定財産への充当額)	71,118,377	74,404,877
固定資産合計	71,118,377	74,404,877	正味財産合計	84,668,863	89,013,152
資産合計	84,668,863	89,013,152	負債及び正味財産合計	84,668,863	89,013,152
(注) 貸付金は一般財団法人統計質保証推進協会宛 3,000,000円。					
ISI基金はISI東京大会記念事業基金を意味する。					
ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金を意味する。					

特定資産の増減及びその残高					
特定資産の増減及びその残高は次のとおりである					
(単位: 円)					
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	摘 要
60周年記念基金	3,549,941	24,450	414,318	3,160,073	増加額は預金利息531と過去立替分返戻 減少額は各賞等目的取崩
75周年記念基金	922,519	148	0	922,667	増加額は預金利息
学会活動積立金	3,500,000	466	0	3,500,466	増加額は預金利息
ISI基金	51,877,162	8,320	0	51,885,482	増加額は預金利息 注1
ICP基金	11,268,755	1,719	0	11,270,474	増加額は預金利息 注2
小川基金会	0	3,665,715	0	3,665,715	増加額の内預金利息85
合計	71,118,377	3,700,818	414,318	74,404,877	
(注1) ISI基金はISI東京大会記念事業基金を意味する。					
(注2) ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金を意味する。					

監 査 報 告 書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の 2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類（正味財産増減計算書、貸借対照表）について検討いたしました。

監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一．事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二．理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2014 年 5 月 1 日

一般社団法人 日本統計学会

監事

竹村 彰通



監事

矢島 美寛



竹村代議員からアメリカで広まりつつあるMOOC (Massive Open Online Courses) の日本版JMOOC (Japan Massive Open Online Courses) が組織されたこと、統計学関係科目も含めること、NTT データグループおよび日本統計学会が、MOOC 提供サイト「gacco™ (ガッコ)」を活用したデータサイエンティスト育成プロジェクトを開始したことが報告された。

川崎 茂氏により ISI (International Statistical Institute) から2019年の日本開催について非公式に打診があったこと、資料に基づいてこれまでの開催地、1987年の東京での開催の様子について報告があった。

報告事項 (委員会報告)

1. 常設委員会における委員の委嘱について

鎌倉理事長より、中野理事を国際関係委員会委員 (委員長) に委嘱したこと (2014年 3 月 7 日付)、笹田薫大会委員会委員を国際関係委員会委員に委嘱したこと (大会委員会委員は辞任すること (2014年 3 月 7 日付) の報告があった。

2. 2014年度統計関連学会連合大会について

鎌倉理事長より、2014年度連合大会が、2014年 9 月13日 (土) から16日 (火) まで東京大学本郷キャンパスで開催され、会長講演と学会賞各種受賞者講演が予定されている旨報告があった。

3. 2014年 3 月開催の春季集会に関する報告

鎌倉理事長より、2014年 3 月 8 日に同志社大学今出川キャンパスにおいて春季集会が開催され、無事に終了したことが報告された。

4. 日本統計学会各賞受賞者について

国友会長 (表彰委員会委員長) より、資料に基づき、学会賞各賞の受賞者の氏名と受賞理由とが報告された。

5. 平成26年度研究成果公開促進費 (科研費・国際情報発信強化) の不採択について

鎌倉理事長より、研究成果公開促進費 (科研費・国際情報発信強化) が不採択であったことが報告された。

6. その他

特になし。

報告事項 (その他)

1. 学会活動特別委員会

竹村委員長より、報告事項がない旨報告された。

2. 学会組織特別委員会

田村委員長より、会員規程の減免制度の変更について審議を進めている旨報告された。

3. 統計教育委員会

竹内委員長より、資料に基づき、各地域の教育委員会・数学教育研究会、SSH 高等学校への統計教育支援、その他委員活動について報告された。

4. 国友会長より、大学間連携共同教育推進事業「課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」の活動の現状について報告された。

美添代議員から、以下のとおり補足説明があった。本事業は活動開始から3年度目を迎えた。平成25年度に統計教育に関する参照基準を改定し、当年度の活動報告書に掲載した。参照基準の改定と並行して、参照基準を実現するためのカリキュラムを作成中である。今後は、標準カリキュラムの完成と、連携校を中心としたその実践を活動の中心とする。ステークホルダーとしての統計関連学会連合、とりわけ統計学会には、本事業への協力をお願いしたい。

5. 次回日程等

国友会長より、役員協議会が2014年 9 月13日 (土) 午後 6 時30分から東京大学経済学研究科棟 3 階第 2 教室において開催される予定であることが報告された。

6. その他

渡辺代議員より、資料に基づき、ICOTS-10 (International Conference On Teaching Statistics -10) を2018年に京都で開催することを計画中で

あることが報告された。

岩崎代議員より、京都統計国際会議が2014年11月17日、18日に開催される予定であることが報告された。

12. MOOC での統計学講座の提供について

鎌倉 稔成（日本統計学会理事長）

最近になって web 上で無料の講座を提供する MOOC (Massive Open Online Courses) が話題となっており、日本においても一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会が発足し、この4月よりいくつかの講座がはじまりました。日本版 MOOC のプラットフォームとしては株式会社 NTT ドコモと NTT ナレッジ・スクウェア株式会社が運営する「gacco™ (ガッコ)」が先行しており、多くの講座が提供されています。このたび、日本統計学会ではこの2社に加えて、株式会社 NTT データおよび総務省統計局と協力して、gacco にて統計学の講座を提供するプロジェクトを開始しました。6月9日にはNTT グループよりプレスリリースが行われました。

この講座は、統計学会が統計検定を通じて体系化している統計教育質保証に沿うものであり、統計学会が推薦する複数の大学教授陣が講師を務め

ます。また総務省統計局も統計学会に協力し、公的統計の利用方法に関する講座を提供します。これにより、これまで大学等を中心に一部の学生しか受講できなかった質の高い統計学の講義を、オンラインで幅広い方が受講できるようになります。MOOC は無料で質の高い講義を web 上に提供するものであり、統計学会はこの趣旨のもとで NTT グループおよび総務省統計局と協力して、統計教育の充実と統計リテラシーの普及に努めてまいります。

講義開始は11月で、5週間の日程で「統計学 I : データ分析の基礎」を提供する予定です。無料のオンライン講義を補足する対面の講義として、東京、大阪、福岡では有料の「反転学習」をおこないます。講座内容、講師等の概要は以下の通りです。

①オンライン講座

講座名	概要	講師（所属）	内容	提供開始時期
統計学 I データ分析の 基礎 (通常コース)	ビッグデータ時代に必要とされる統計的な考え方やデータの要約と分析の基礎的な手法を学ぶ講座（日本統計学会認定基準準拠）です。	竹村彰通 (東京大学)	導入（統計学とは）	2014 年 11 月 (予定)
		下川敏雄 (山梨大学)	質的変数	
		酒折文武 (中央大学)	量的変数	
		中山厚穂 (首都大学東京)	相関、時系列	
		総務省統計局	公的統計の活用とまとめ	

②反転学習

講座名	概要	講師（所属）	開催場所	反転学習実施時期
統計学Ⅰ データ分析の 基礎 (反転学習 コース)	通常コースに対面学習を組み合わせたコースです。 オンライン講座の内容について、質疑応答およびパソコンを利用した簡単な実習を行います。	竹村彰通 (東京大学)	東京	2014年12月(予定)
		狩野裕 (大阪大学)	大阪	
		西井龍映 (九州大学)	福岡	

13. ロシア統計学会設立に立ち会って

鎌倉 稔成（日本統計学会理事長）

今年1月下旬、庶務理事の西郷先生から1通のメールが舞い込んだ。会長、国際関係担当理事の中野先生、理事長の私の3名に宛てられたものだった。内容は、総務省・国際統計管理官の高田氏からのメールの転送で、下記の依頼であった。また、高田氏のメールは内閣府から在ロシア日本大使館に出向している山岸書記官からの依頼を含んでいた。メールの内容をそのまま引用する。

この度は、学会にご検討いただきたい件があり、ご連絡差し上げました。

ロシア高等経済大学に、経済統計がご専門のアレクセイ・ポノマレンコ教授（Alexey Ponomarenko）という方がいらっしゃいます。過去には一橋大学で研究及び教鞭をとられていたこともある方です。内閣府から在ロシア日本大使館に出向している山岸書記官とお付き合いがある方です。そのポノマレンコ教授から山岸書記官に連絡があり、

○今年の4月までに、「ロシア統計学会（Russian statistical society）」という学会を設立しようとしている

○同時期にコンファレンスを開催したいと考えており、その場に、日本からもどなたか代表者をお招きしたい

○そこで、日本における統計の学会を紹介してくれないかとの内容である。

山岸書記官のメールも添付されており、ポノマ

レンコ教授について、産業連関表及び national accounts（supply side）がご専門で、ロシアのGDPの長期週及系列の作成などを行ったこともある方で、昔、日本の一橋大学で研究及び教鞭をとられていたこともあります。その時の関係で、一橋大学の久保庭教授や北海道大学の田畑教授などのロシア経済に関する経済学者の方々と、今でもお付き合いがあるようです。

このメールを流し読みしたときには、専門も経済学あるいは官庁統計に関わることであるから、どなたか経済関係の人に行っていただけるものと考えていた。しかしながら、クリミア問題が勃発し、米国を中心として経済制裁が行われ、また、旅費も提供されないということもあってか、ロシア行きを決意する人は現れなかった。ロシアに統計学会がこれまでなかったということは驚きではあるが、この歴史的な瞬間に立ち会い、祝辞を述べることはこれからの日露間の統計学会の関係に影響するのではないかの判断のもと、中野国際関係担当理事と理事長の私が行くことを決めたのである。この判断は、ビザ申請を考えると、もうこれ以上待てないという限度の2月末のものである。その後、残念ながら中野理事は家庭の事情で断念することになった。さて、決断をしたにはしたのであるが、ビザの申請は Kirill Muradov 先生とのやりとりをして、出立2日前に完了した。ロシア



写真1. ロシア統計学会設立の祝辞を述べている筆者



写真2. ロシア統計学会設立の評決の様子

はまだまだ遠い国である。

コンファレンスは4月1日から4日にロシア高等経済大学主催で行われ、基調講演や全体のパネルディスカッションに政府高官も参加する、ロシア国内の経済分野の学術コンファレンスでは最も大きなものとされている。1日目はPlenary meetingsで、かなり政治色の強く、ドミートリー・メドヴェージェフ（Дмитрий Анатольевич МЕДВЕДЕВ）ロシア連邦首相、アントン・ゲルマノヴィチ・シルアノフ（Анто



写真3. ロシア連邦統計庁内における統計学会発足式のグループ写真

н Германович Силуанов）ロシア連邦財務大臣、エスコ・アホ（Esko Aho）フィンランド前首相（1991–1995）等の講演が行われた。

2日目がロシア統計学会設立会議で、当初予定されていたロシア高等経済大学でなく、ロシア連邦統計庁で執り行われた。大きな会議を予想していたが、来賓を含む代表者のみの円卓会議であった。これまでロシアでは統計学は国の政策に必要な学問とされ、学術団体は存在しなかった。しかし、ビッグデータをはじめとするデータサイエンスの世界の潮流の中で、学会組織が必要になったのである。この発足式に先立って統計教育に関する円卓会議が持たれたことは興味深い。その机上では統計教育の標準化、統計の実地教育と世界潮流への適合化、ロシア大学と世界統計教育センターとの協力などのテーマを話し合われた。統計教育の実践が統計学の発展を加速させ世界基準に追いつくことへの近道であると理解してのことだと思われる。

また、午後には来賓は祝辞を述べ、グループ写真を撮り閉会した。

14. 経済成長を担う“データサイエンス”力の高い人材育成

ー統計力向上サイト「データサイエンス・スクール」開設ー

総務省統計局統計情報システム課統計情報企画室

わが国の国際競争力を維持し、経済成長を加速させるためには、ビジネスの現場においても、データに基づいて課題を解決する能力の高い人材、いわゆるデータサイエンスを身に着けた人材が不可欠となっています。

このため、“データサイエンス”力の高い人材育成とその学習基盤整備が喫緊の課題となっており、今般、総務省統計局及び統計研修所は、これまで統計リテラシーの普及・啓発を先導してきた経験をいかし、日本統計学会等と協力し、人材育成のための取組を展開することを発表しました。

ここでは、その取組の一つとして、6月1日に開設した統計力向上サイト「データサイエンス・スクール」<http://www.stat.go.jp/dss/index.htm>について簡単に紹介します。

「データサイエンス・スクール」紹介用画像



このサイトは、主に社会人、ビジネスパーソンを対象とし、パソコンやスマートフォンなどでデータの活用方法や統計に関する知識を、“いつでも誰でも気軽に学べる”統計力向上のためのもので、以下の四つのコンテンツから構成されています。

☐ ～統計検定の問題に挑戦～「あなたの統計力」

「あなたの統計力」では、統計検定の4級か

ら2級に対応したテキストで学習し、問題に挑戦することができます。

☐ ～意外な有名人も統計学に関係?～「ビジネスに役立つ統計講座」

「ビジネスに役立つ統計講座」では、統計学の歴史上の人物等を切り口に、イラストやマンガで統計学の基礎を分かりやすく紹介しています。

☐ ～グラフの活用方法を分かりやすく説明～「プレゼングラフ作成のポイント」

「プレゼングラフ作成のポイント」では、ビジネスパーソンがプレゼンテーションで使用するグラフの作り方（データの視覚化）のポイントを分かりやすく説明しています。

☐ ～データ活用の体験談を紹介～「出来る人のビジネス活用術」

「出来る人のビジネス活用術」では、ビジネスの現場において、データ（統計）がどのように使われているのか、統計の専門家や企業の担当者の方等のインタビューを中心に紹介しています。

また、もう一つの取組として、自らの学びをサポートするウェブ上で誰でも無料で参加可能なオープンな講義「データサイエンス・オンライン講座」を今年度中に立ち上げる予定です。こちらはいわゆる「MOOC（ムーク）」の手法を用いた取組となっており、日本統計学会にも協力団体として参画いただく予定です。

これらの取組を通じて、わが国のデータサイエンス力が向上し、企業活動の活性化につながることを期待しています。

15. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

・廣瀬 英雄, 『実例で学ぶ確率・統計』,

日本評論社, 2014年3月, 2,800円+税,

ISBN: 978-4-535-78756-8

内容紹介: 身近な話題に関する例題から入り, その背景にある確率・統計の概念を学ぶ。

16. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2014年度会費の請求書が会員のお手元に届いていると思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上, こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに, 氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

(公財) 統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax: 03-3234-7738

E-mail: shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し, 御冥福をお祈り申し上げます。

牧野 都治 名誉会員

入会承認

猪狩良介, 井川孝之, 池本大樹, 石井晶, 今井紀子, 梅田博之, 大草孝介, 大竹杏奈, 岡田高直,

金川元信, 川崎玉恵, 北英紀, 黍迫和正, 小島睦月, 小林直樹, 小林正弘, 三枝祐輔, 坂口弘樹, 里泰雄, 佐藤彰洋, 佐野文哉, 重永航輔, 下平祥貴, 徐広孝, 白井洋至, 菅澤翔之助, 崔庭敏, 中津貴文, 中西真悟, 中村裕子, 中山直人, 野津昭文, 東出卓朗, 平野賢一, 広瀬修, 深澤桃子, 保科架風, 細谷美貴, 松井宗也, 三家礼子, 宮本崇, 山本史門, 渡邊武志 (敬称略)

退会承認

井出眞広, 伊東洋三, 大滝盛司, 大野ゆう子, 亀井光雄, 川口雅正, 河田祐一, 近藤登雄, 佐野一雄, 鈴木義一郎, 州浜源一, 立花厚子, 田辺孝二, 富田幸弘, 中野あい, 二宮正司, 橋本知幸, 原田雅顕, 又賀善治, 柳下公男, 武田バイオ開発センター株式会社 (賛助会員), 東京図書株式会社 (賛助会員) (敬称略)

長期連絡不能により退会したとみなされた会員

稲垣和久, 浦田昌計, 江崎光男, 大上慎吾, 大倉孝昭, 大野和広, 岡部純一, 河田隆彦, 古賀昭典, 貞村良昭, サビール ゴーシュ, 高田茂樹, 館山壮一, 中尾有伸, 堀博展, 萬谷明久, 南雅輝, 村本吉弘, 山田伸二 (敬称略)

現在の会員数 (2014年5月10日)

名誉会員	16名
正会員	1,409名

学生会員 40名
総計 1,465名

賛助会員 15法人
団体会員 7団体

17. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

- 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。

- 求人案内（教員公募など）

- 研究集会案内

- 新刊紹介

著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

できるだけ e-mail による投稿、もしくは、文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-7
大阪大学大学院経済学研究科

竹内 恵行 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp